

のびゆく 長崎っ子

72

長崎市青少年育成連絡協議会だより

今号の内容です。ぜひ読んで下さい。

- ★第18回広報紙コンクール
- ★東日本大震災をうけて
- ★長崎市子連の歩み

- ★子どもゆめフェスティバル2011
- ★編集後記

おめでとうございます！

第18回長崎市青少年育成連絡協議会 広報紙コンクール

グランプリ

片淵中学校区
青少年育成協議会

力作揃い...

同日、平成二十三年度青少年育成協議会活動事例発表会が行われました。今年度は香焼中学校区青少年育成協議会・緑が丘中学校区青少年育成協議会・三和地区青少年育成連絡協議会・丸尾中学校区連合子ども会の皆さんが日頃の活動の事例を熱心に発表されました。

今年度は審査方法を改め、前年度グランプリを獲得した式見中学校区青少年育成協議会と大浦中学校区青少年育成協議会にも審査員に加わっていただきました。

女の都小学校区青少年育成協議会

◎「ほこおやん」

◎「こどもみらい課長賞」

◎「おこやん」
為石小学校区青少年育成協議会

◎会長賞

◎「育成協だより」
神浦中学校区青少年育成協議会

◎「はぐみ」
高尾小学校区青少年育成協議会

◎「育成協だより」
小島中学校区青少年育成協議会

◎「はぐみ」
高尾小学校区青少年育成協議会

◎「育成協だより」
小島中学校区青少年育成協議会

◎「育成協だより」
小島中学校区青少年育成協議会

◎「はぐみ」
高尾小学校区青少年育成協議会

◎「育成協だより」
小島中学校区青少年育成協議会

◎「はぐみ」
高尾小学校区青少年育成協議会

◎「育成協だより」
小島中学校区青少年育成協議会

◎「はぐみ」
高尾小学校区青少年育成協議会

◎「育成協だより」
小島中学校区青少年育成協議会

◎「はぐみ」
高尾小学校区青少年育成協議会

◎「育成協だより」
小島中学校区青少年育成協議会

◎「はぐみ」
高尾小学校区青少年育成協議会

◎「育成協だより」
小島中学校区青少年育成協議会

第十八回 広報紙コンクールで次の育成協の皆さんが表彰されました。皆さんおめでとうございます。



長崎市子連の歩み



長崎市子ども会育成連合会 専門委員長 木村 一生

江戸時代から平成まで、各時代の国の「秩序」はどのようにできて来たのでしょうか。子ども会にも秩序（ルール）があります。そこで、子ども会の歴史をみてみましょう。

戦後、青少年教育は国の重点施策とされました。昭和40年全国子ども会連合会が法人化し文部省から認定を受け、この頃長崎市内には436の子どもを守る会ができています。昭和46年長崎県青少年県民会議が誕生、昭和57年長崎市青少年育成連絡協議会が誕生、昭和61年長崎市子ども会育成連合会が誕生しました。ここで、県民会議結成総会での久保勘一氏（当時会長、県知事）の熱いスピーチをご紹介します。

「青少年は、明日の郷土の担い手であり日本の将来を築く原動力であります。……中略……ひらたく申しますと、親や、直接青少年を指導する立場にある者はもちろん、一般県民一人ひとりがその姿勢を正すとともに、お互いに青少年問題について関心を高め、深い理解と愛情をもって積極的に青少年の育成運動に参加することが望まれるのであります。このような趣旨により、ここに長崎県青少年育成県民会議を結成し、各種関係機関団体が一体となり、青少年の健全育成運動を推進する運びになりましたことは、誠に同慶に絶えない次第であります。」

さて、東日本大震災での子どもの命を守れた事例を、6月掲載の新聞よりご紹介します。

「宮城、岩手、福島3県の千余の保育所の半数近くが津波で全半壊したにもかかわらず、一人たりとも園児の死者・不明者を出さなかったという。日頃から地震のたびに訓練を行い、避難場所とコースを精査、検証し、たとえ津波が来なくても園児らを必ず避難場所まで送り届けた。……中略……園児が歩くのは無理と考え、保育士たちは自分の車に園児を乗せ、畑を突っ切るコース（事前に地主承諾）もあり、本番では1台のワゴン車に25名というケースもあった。徹底した命を守る実践であった」

子ども会は、社会の秩序（ルール）を学ぶ場でもあります。そしてそこに関わる親一人ひとりの倫理感が子ども会の秩序、引いては国の秩序に強く影響を与えていきます。親が子どもの命を守ることは最大の責務であります。子どもはその姿勢を見ると安心して生活できるようです。今、目の前の人が好き実践をやっていきましょう。

最後に、日頃のみなさまのご協力に対し心より感謝をいたします。



編集後記

先日、ある雑誌で福島、山形、宮城、岩手4県の観光地の写真を目にし、今から35年前の夏休み、長崎に帰らず上野駅から杜の都仙台へ、そして、日本三景の一つ松島、藤原氏四代を奉った中尊寺金色堂など美しい景色と、夏だというのに蔵王の沢には雪が残っていたのに驚いたことなど、懐かしく思い出された。また、山あいの小さな旅館はもう今はダムの中にあるという。元気なうちに、もう一度思い出の旅へと出かけたいものだ。

東日本大震災からはやくも一年。

今回は、現地でボランティア活動をとおして、現地の状況や人々の生活の様子など、編集委員の一人である松林さんに紹介していただきました。

今回の大震災でお亡くなりになられた多くのみなさまのご冥福と、一日も早い復旧と復興をこころから願ってやみません。

がんばろう東北！ 頑張ろう日本！！

平成26年10月12日(日)～1
この施設はバスケットボールとバドミントン

子どもゆめフェスティバル 2011

子どもゆめフェスティバル'11が平成23年11月23日(水・祝)に開催されました。
今年度は約1,000名の方々にお越しいただきました。
誠にありがとうございました。
次回も皆さんのお越しをお待ちしております！！
[平成24年11月17日(土)長崎県立総合体育館で開催予定]